

公表

事業所における自己評価総括表

保育所等訪問支援ソルブ

○事業所名	保育所等訪問支援 Solve		
○保護者評価実施期間	2025年 3月 1日 ～ 2025年 3月 20日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	1 (回答者数)	1
○従業者評価実施期間	2025年 3月 1日 ～ 2025年 3月 20日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	2 (回答者数)	2
○訪問先施設評価実施期間	2025年 3月 15日 ～ 2025年 3月 21日		
○訪問先施設評価有効回答数	(対象数)	1 (回答数)	1
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 3月 21日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待さ	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	個別ニーズへの「訪問支援」	市内の福祉サービスは通所中心であるため、訪問支援は当事業所の強みとなっており、集団生活での困りごとに直接的に支援を行うことが可能です。 保育所や学校等になじめない、発達障がい、行き渋りや不登校などのお子さんへ、訪問先の先生方と一緒にインクルージョンの理念に基づいた個別支援を行い、お子さん自身の力を引き出します。	事業の認知度が低いため、実績の紹介や丁寧な事業説明を行い、保護者や訪問先が依頼しやすい環境を整えていきたいです。
2	学校や保育所と福祉が、集団生活の現場で連携できる 「インクルーシブな支援」	学校と福祉が協力し、お子さん一人ひとりに最適な支援を行い、安心して集団生活に適應できるよう支援しています。 訪問支援員は、保護者や先生方の黒子となり、共にお子さんが成功体験を積み重ねられるよう支え、徐々に支援を外していくことで、集団生活での困りごとを改善し、社会で自立するために必要な自信と生きる力の育成をサポートします。 学校と福祉の連携によって、課題を迅速に把握し、即時に対応できる体制があるため、効果的な支援が実現できます。	お子さんが必要とする細やかなニーズに応え、保護者や先生方にとって、痒い所に手が届くような支援ができるようにしていきたいです。
3	社会参加の幅を広げる「進路支援」	お子さんが集団生活に適應しやすくなるよう支援するだけでなく、将来を見据えた支援に取り組みます。 社会で自立するための自信やスキルが育つようサポートし、進学や就職への橋渡しを意識した支援を行うことで、望む生活への選択肢を広げます。 教育環境の選択（通常学級、支援学級、支援学校、定時制、通信制など）など、さまざまな進路について、関係機関と連携しながら相談に応じます。	ネットワークを大切にし、広げていくことで、お子さんや保護者、先生方に対して、より多様な情報提供ができるようにしていきたいです。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思わ	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	人員配置	できる仕事量が限られていた。	起業直後で経営面でわからないことがあるので、少しずつ起動にのせて、徐々に現場の人員を募集できるようにしていきたい。
2	広報活動	広報活動や事業内容の周知ができなかった。	地域の方々に認知していただけるよう、事業内容を情報発信していきたい。
3	連絡関係	連絡がつながるまでに時間がかかることがある。	電話がすぐ繋がらないことがあるので、公式LINEやメール、DMなどの活用をお願いしていきたい。